

竹富、来月に観光立町宣言

【竹富】観光立町宣言の準備を進める竹富町は2日、石垣市内のホテルで、「竹富町の将来像と観光(感幸)を考える大ゆんたく会」を開いた。観光業者や行政、各離島の住民ら約40人が参加して協議した。町は大ゆんたく会で挙げた意見や声をまとめた上で、3月21日の竹富島コンドイビーチの海開きで、観光立町を宣言する。



観光のあり方について意見交換した大ゆんたく会＝石垣市のチサンリゾート

住民意見 島の魅力PRへ 吸い上げ

同町内には九つの有人離島がある。これまでに各離島で計15回の「ゆんたく会」を開催。「島の自然、文化の保全」「観光と農業など1次産業との連携」「島ごとの個性を生かした観光」などを求める意見が多かったという。

大ゆんたく会では、これまでの取り組みが紹介されたほか、参加者が少人数のグループに分かれて、意見を交換した。竹富町観光のキャッチコピーとして「島時間満喫」「また行きたい島、また会いたい人」などが挙げられた。

観光立町宣言の意義について、町の担当者は「これまでの行政施策に比べ、より観光を意識したまちづくりができる」「町民の観光産業に対する共通理解が進み、意識が変わる」「国内外の市場に魅力ある観光地としての認知度が高まる」と説明した。

富本傳副町長は「竹富町ら

しい観光のあり方として、今回の意見を宣言や推進計画に盛り込みたい。満足度の高い「観光、通過型から滞在型、量から質の観光への転換を目指したい」と決意を示した。